

氏 名 高橋 大輝
所 属 人文学部 法経政策学科 2年
派遣大学 ラトビア大学
派遣期間 9月6日～9月27日 (22日間)

<日本語クラス>

日本語クラスはラトビア大学の経済学部棟の5階の教室で、月曜日から金曜日まで1日2コマ開講されました。1コマは2時半から4時まで、30分の休憩をした後で2コマ目は4時半から6時まで授業を行いました。授業に参加する生徒は、中学生から社会人まで幅広い年代で、さまざまな日本語のレベルの生徒が集まりました。2時半からの授業は5名程度、4時半からの授業は20名程度の生徒でラトビア大学は新学期が始まっていたこともあり、ラトビア大学の学生が少ないという印象でした。

私がラトビアに派遣された間、前半は日本語チューターできている山形大学の学生が5名ほどいたためクラスをレベルごとにグループに分け、日本人の学生が一人ひとりグループについて指導するという形で行いました。日によって、初めて日本語を勉強する生徒を担当するときや、ラトビア大学で日本語クラスに所属していて流暢に日本語を話す生徒までさまざまな生徒に日本語を教えていたため、たくさんの生徒とコミュニケーションをとることができました。少人数のグループで指導では、生徒とのコミュニケーションも取りやすいので授業がしやすく、レベルに合わせた授業ができるので生徒にとってもよいのではないかと思いました。後半は、山大生2人だったため教室を2つ使い、ビギナーとアドバンスに分けて、アドバンスクラスを担当しました。レベルの異なる10名程度の生徒に指導することは難しく毎日、試行錯誤しました。まず、日本語教育についての知識がない自分に何ができるかを考え、自分にできることは日本語の発音をおしえることやボキャブラリーをおしえること、言葉だけでなく日本についても教えることで日本に興味をもってもらい日本語を勉強する動機づけをすることだと考えました。そのため、授業では会話を多く取り入れたり、日本の食や観光地、文化について日本語で教え、わからない表現をおしえたりする授業を取り入れました。ラトビアでの学生はシャイなように感じ、みんなの前で質問はある？や何か知りたいことは？と尋ねても何も無いといわれるばかりだったので、あるテーマをきめてそれについて自分で作文をしてもらい、その中で一人一人のところに行ってわからない表現を教えたりテーマに沿ってペアで会話をさせたりし、最後に自分の作文を一人ひとり読んでもらいみんなに感想や質問を言ってもらったりなどするような授業もしました。

最終日には日本の歌や日本のお菓子をたべたりしてしめくり、クラスのみんなともある程度打ち解けられ、試行錯誤の中で成果は得られたのではないかと思います。

<授業以外での活動>

寮は、旧市街に近い大学からトロリーバスにのって10分くらいの場所にありそこで生

活をしていました。寮の付近の治安は良くなく、バスの中も注意しながら乗っていました。寮ではシャワーやキッチン、冷蔵庫、洗濯機なども共同で使うことができるので生活するうえでの不便なところはそれほどなかったです。寮ではラトビア大学から短期留学している日本人の学生もいて、ラトビアでの生活をたすけてもらったため不安なく生活することができました。

授業が終わると、日本語クラスの生徒と毎日のようにカフェやレストランにでかけたりして、時には寮にきて遊んだりと楽しい時間を過ごしました。日本でのサマープログラムで出会ったラトビア大学の学生とは特にも、毎日のように一緒にあそんだり、買い物に行ったりしてたくさんの交流をすることができました。週末には隣の国に出かけ、さまざまな観光地にいたり、その国の料理を食べたりして楽しみました。そこでも、その国に留学している日本人に出会って交流し、ラトビアでの出会いもふくめ、さまざまな大学の日本人と交流することができました。

気候は雨が多い時期に行ったようでしたが、晴れの日がおおくきれいなラトビアの景色を楽しむことができました。寒いと思っていったのですが日本の秋ぐらいの気温でそれほど寒い日もなく、過ごしやすい毎日でした。料理もどれもおいしく、生活しやすい環境の中ラトビアでのプログラムを終えることができました。

〈感想〉

日本語チューターとしての派遣は、ベトナムにつづいて二回目でした。ラトビアでの授業では生徒から授業に対しての厳しい意見がだされること、英語力が必要なため大変と聞いていたので不安でしたが、2回目のチューターだったのでチャレンジしようと思いラトビアに行くことを決めました。まず、日本語クラスに行って思ったことは静かに勉強する生徒が多いということでした。なかなか自分の意見を言う生徒はなく、理解しているから質問がないのか、自分の授業の仕方や内容が難しく理解できていないのかわからないこと大変なところでした。そのために生徒に話をさせる、自分の意見を出してもらい授業をするようにこころがけました。語学力に関しては、ラトビア人の流暢な英語を聞き取れないことが多くあり、英語力の向上が必要だなと感じました。

ラトビアでのチューターとしての活動は、ベトナムへ行った時とは全く違った経験ができ、国も違えば人も違うということを実感しました。この3週間は、本当に貴重な経験をすることができ、自分でいろんなことにチャレンジする機会が多かったと思います。さまざまな出会いの中で、たくさんの刺激をうけ、自分自身を見つめなおすきっかけになりました。素晴らしい経験をすることができ、このプログラムに携わってくださったすべての方々に感謝します。本当にありがとうございました。